

やまあらしプリックリーのひみつ

ソントン・バージェス／作

岡部うた子／訳

美乃 育／絵



ソーントン・バージェス

やまあらしプリックリーのひみつ

THE BEDTIME STORY BOOKS
THE ADVENTURES OF PRICKLY PORKY
by
THORNTON · W · BURGESS

やまあらしプリックリーのひみつ

バージェス アニマル・ブックス 16

1972年8月／発行©

訳者／岡部うた子

発行者／斎藤佐次郎

発行所／株式会社**金の星社**

東京都台東区小島1丁目4-3
電話／東京03-861-1506(代表)
振替／東京64678

写植／松竹写植

製版／サンプロセス社・村田製版所

印刷／熊谷印刷株式会社

製本／株式会社小林製本所

乱丁落丁本はおとりかいたしますので、お
求めの書店または本社へお申し出願います。

933 バージェス、ソーントン ワルドー
やまあらしプリックリーのひみつ
岡部うた子 訳
金の星社 1972
163P 22cm

基本カード記載例

8397-007162-1406

バージェス アニマル・ブックス 16

やまあらしプリックリーのひみつ

T・バージェス作

岡部 うた子 訳

そうほん・さしえ

美 乃 育



もくじ

ジャックが おかしなものを みつける…… 6

きたのくからの おきやくさん…… 13

あたらしいなかまを みにいこう…… 19

ピーターうさぎの ビッグ・ニュース…… 26

ピーターの はなし…… 33

おなじはなしを くりかえす ピーター…… 40

プリックリーを たずねる ジミー…… 47

いきがつまりそうになった プリックリー…… 53

くいちがう ジミーと ビリーおじさんの はなし…… 62

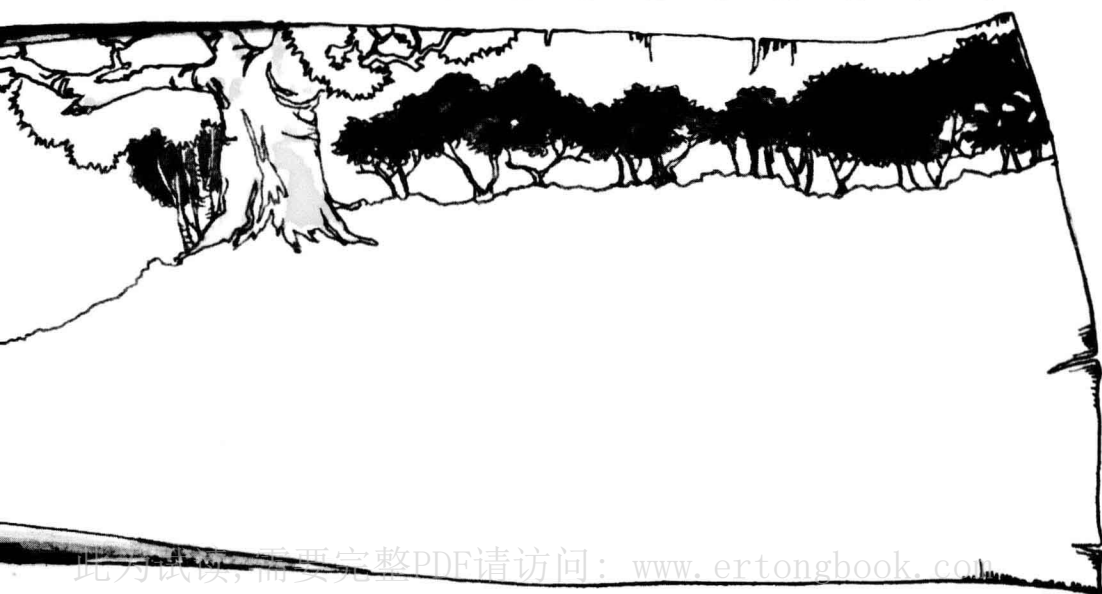
ビリーおじさんが ジミーに ひみつを はなす…… 69

プリックリーのおかへ むかう レッド…… 76

レッドの したこと…… 82

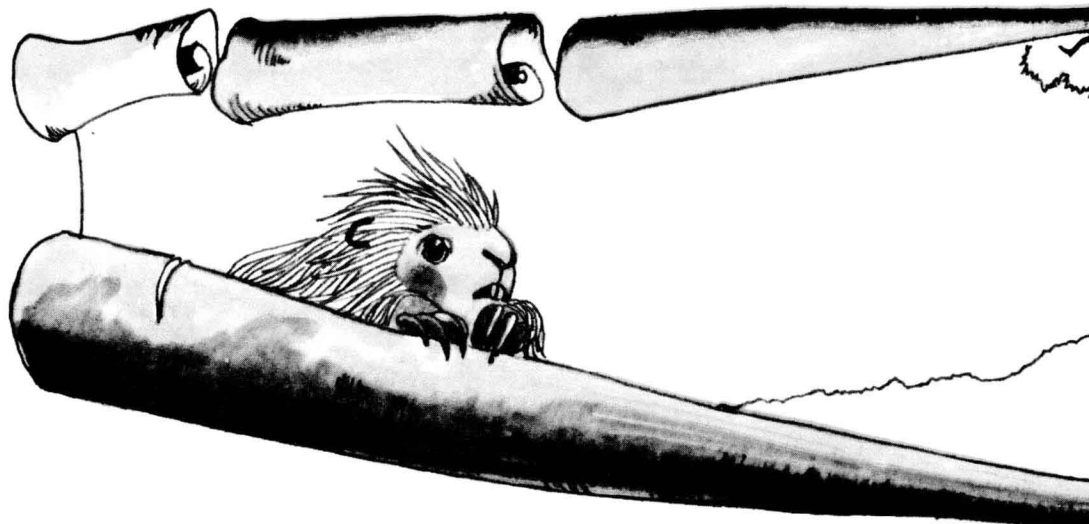
みじめな レッド…… 90

かくれまわる レッド…… 96



■お子さまの読書指導のために

「ちようき」にでかけた おばあちゃんぎつね……	103
いげんをなくした きつねのおばあちゃん……	110
ピーターをつかまえた おばあちゃん……	117
こまったときのともだちこそ ほんとうのともだち……	124
ジミーが ピーターのおかみさんに しらせる……	132
コヨーテおやじを おどろかす たくらみ……	138
サミーが コヨーテを おびきだす……	144
にげていった コヨーテのおやじ……	149
バスターが しょうたいを みやぶる……	156
この作品について……	164
カナダヤマアラシの話……	166
古賀忠道……	170
原作者バージェスについて……	170
白木 茂……	170



***** 訳者・画家紹介 *****

岡部 うた子 (おかべ うたこ)

1940年、山梨県都留市に生まれる。駒沢大学
英米文学科を卒業後、横浜市の高校で教鞭を
とる。主な訳書には、「ビーバーが森にやっ
てきた」がある。

現住所ー千葉県四街道町鹿渡1026

美乃 育 (みの いく)

1932年、岐阜市生まれ、日本イラストレータ
ーズ会議に属し、主として広告・デザイン界
で活躍。「動物との対話の楽しさが子ども達
につたわればうれしい。」

現住所ー東京都練馬区高松4-10-2

やまあらしプリックリーのひみつ

T・バージェス作 岡部うた子訳



ジャックが おかしなものを みつける



きょうは、りすのうかれジャックにとって、すばらしい一日でした。というのは、これまでみたこともないような ^{おお}大きなくりの木^きを、なん本^{ぽん}かみつけたからです。これほどの木なら、らいねんの冬^{ふゆ}は、たべものには、まったく、ふじゆう しないくらいの くりのみが、なるにちがないからです。

ジャックは、もうおそくなったので、そろそろいえにかえろうかとおもい、のはらのほうに ^め目をやりました。そののはらで、けさ、あやうく、たかに つかまりそうになったのでした。ジャックのいえは、のはらのむこうがわにありました。

「だいぶ、とおまわりになるけど、あんぜんで、あるきなれたみちをいくのが、一ばんさ。」

ジャックは、ひとりごとをいいながら、のはらをぐ



るっと 大まわりするほうの michi を、あるきはじめました。

ジャックは、ぴよんぴよん、木から木へ とびうつりながら、すすんでいきました。しばらくいくと、じめんになにかおちているのに、きが つきました。ジャックは、とてもきになりました。

「さてよ、よくみてみよう。」

ジャックは、ひとりごとをいうと、するするっと 木からおりました。

「なんだろう？」

ジャックは、それを ひろいあげてみました。

ところが、「いたい！」と、さけぶとうじに、そのおかしなものを おとしてしまいました。よくみると、すべすべしていて、いろは、白とくろのまだらで、かたほうのさが、ひじょうにすんどく とがつていました。そのとがったさに、小さなとげがあつて、ジャックは、そのとげにさされたのです。

ジャックは、すこしおちついてから、よく、まわりをみまわしました。すると、あちこちに おなじものが、まだいっぱいおちているのに、きがつかしました。

「いったい、なんだろう？　ねがないようだから　大きくなりっこないし、とげのある　くさでもないようだ。だい一、とげでできているくさなんて　あるわけない。そうかといって、いきものでもなさそうだし、いったい、なんだろう？」

ジャックは、ぶつぶつ　ひとりごとをいいながら、まわりにおちている　そのおかしなものを、せっせと　しらべてまわりました。でも、足もとばかりみていて、一ども　木の上をみあげようとは、しませんでした。もしジャックが、ひよいと　木の上をみていたら、そんなにかんがえこまずにも　すんだでしように。

ジャックは、まだ「なんだろう？」と、あたまをひねりながら、それでも、そのおかしなものを、三、四本ほんひろって、かえることにしま



した。

とちゆうで、ピーター
うさぎに、であいま
した。ジャックは、さ
つきひろった あのお
かしなものを、さっそ
く ピーターにみせま
した。ところが、ピー
ターは、たいへんな
しりたがりやです。で
すから、それをみせて
もらうと、もうじつと
していることなど で
きません。じぶんの目



で、はやく おかしな
ものがおちているとこ
ろを みたくてたまら
ないのです。ピーター
は、ジャックから そ
のばしよをききだす
と、すぐにはしりだし
ました。

「きをつけな、ピータ
ー。すごく とがって
いるんだからね！」
ジャックが 大ごえ
でいったのも、きいて
はいませんでした。

ぴよん　ぴよん　ぴよん……。ピーターは、ながい足^{あし}を　できるだ
けはやく　うごかして、そのおかしなものの　おちているばしよをめ
ざして、はしりつづけました。

ジャックに　おしえてもらったあたりまできたとき、ピーターは、
とつぜん、ひめいをあげて　すわりこみました。ところが、すわりこ
んだとたん、こんどは　もっと大きなひめいをあげて、ぱつと　とび
あがったのです。

いったい、ピーターは、どうしたというんでしょう？——じつは、
ジャックにみせてもらった、あのおかしなものが、ピーターの足に一
本^{ぽん}、そして、おしりのところにも一本、つきささっていたのです。

きたのくからの おきゃくさん



西風^{にしかぜ}のおばさんの こどもの ようきなそよかぜ
ちは、こうふんしていました。というのは、とちゅう
で、りすのうかれジャックと、ピーターうさぎにであ
って、ふたりが、へみどりの森でみつけたという あ
のおかしなもののはなしを、きいたのです。

ですから、そよかぜたちの あたまの中^{なか}は、もうそ
のニュースのことで、いっぱいだったのです。そよ
かぜたちは、へみどりがはらゝを、あちらこちらと は
しりまわって、であったものみんなに、そのニュース
をはなしました。

そよかぜたちは、とうとうへにつこりいけまでやつ
てきました。そして、じいさまがえるにも、そのはな
しをしました。

じいさまがえるは、たいそう かしこそうにみえま

した。というのも、とても年をとっていたからです。そよかぜたちの
はなしを、じつときいていた じいさまがえるは、いいました。

「ふうん……だが、わしは、そのおかしなものがなんだか、しっ
てい
るがね」

「ほんとうですか？」

そよかぜたちは、おもわず、みんないっしょに、大ごえをあげまし
た。そして、つづけていいました。

「でも、ジャックが、あれは大きくならないと いていますよ。あ
そこに はえているくさなら、しらないものはないそうですから。」

じいさまがえるは、ようきなそよかぜたちの ひとりが、はこんで
きてくれた ばかな金きんばえを、大きな口をあけて、ぱくつと のみこ
んでからいいました。

「ケロケロ……。大きくなるのは、くさだけとはかぎらんよ。あれは、
たしかに 大きくなる。だが、くさとはちがうわい。」